

京都市左京区花背地域で保全され、祇園祭でおなじみの「厄よけちまき」の材料として知られているチマキザサの新たな保護区が同地域内につくられた。20年前の枯死から復活に力を注いできた「チマキザサ再生委員会」と生物多様性の保全を推進する市内の企業が協力し、ササの面積拡大を目指す。

チマキザサ保護区新たに

左京区花背 祇園祭「厄よけちまき」材料

チマキザサは同区花背別所町でも相次いだ。13年に住民や京都大
も相次いだ。13年に住民や京都大
も相次いだ。13年に住民や京都大
も相次いだ。13年に住民や京都大

再生委と市内企業協力



新たな保護区でチマキザサの苗を移植する参加者ら
(京都市左京区花背別所町)

ボランティアら移植

今回、京都環境保全公社(伏見区)が府内の生物多様性保全を推進する目的で、府や市などと結んだパートナーシップ協定に基づいて同委員会を支援することとなった。

新たな保護区は同町北側の山中に約600平方メートル設けられた。車が近くまで乗り入れられ、比較的管理しやすい場所にある。

12日には同委員会や同社、大学生のボランティア約30人が参加して、現在の保護区周辺にある柵外のササ苗を掘り起こし、新たな保護区に移植した。寒空の中、所々うっすらと雪が積もった地面をシャベルで掘り、苗を植えていった。同委員会副委員長で、京都大助教の貴名涼さん(36)は「環境デザイン学」は「(保護のために)得意な分野を持った参加者が増えて取り組みが良くなっている。今日は新たな一歩で、みんなで作業できてよかった」と話していた。



チマキザサと保護の取り組みを紹介したプレート
(能美孝啓)